

令和元年10月定例教育委員会 会 議 録

- ◎ 開催日時 令和元年10月31日（木）午後2時00分～午後2時45分
- ◎ 場 所 富田林市役所 庁議室
- ◎ 出席委員

教 育 長	教育長職務 代 理 者	委 員	委 員	委 員
山口 道彦	山元 直美	勝山 健一	南 栄子	水本 哲也

◎ 事 務 局

山本 教育総務課長	山下 教育総務部長	山本 生涯学習部長	古村 教育総務部付 部長兼 教育指導室長	金銅 教育総務部 理事兼 学校給食課長
正木 生涯学習部 次長兼 生涯学習課長	辻野 教育総務部 次長代理兼 教育指導室次長	房田 生涯学習部 次長代理兼 文化財課長	阪本 中央公民館長 兼東公民館長 兼金剛公民館長	尾谷 中央図書館長
井尻 金剛図書館長	西岡 教育指導室参事			
				(書記)谷塚 教育総務課長代理

令和元年度10月定例教育委員会会議録

令和元年10月31日(木)
開会：午後2時00分
閉会：午後2時45分

山本教育総務課長

令和元年度10月定例会議に入ります前に事務連絡から始めさせていただきます。次回の定例会議の日程でございますが、11月28日(木)午後2時00分から、富田林市役所庁議室での開会を予定しております。それでは、本日の議事日程をご説明させていただきます。

《議事日程を説明》

それでは、教育長開会をお願いいたします。

山口教育長

それでは、会議を始める前に、今月の会議より仲野委員の後任として、新たに水本哲也委員がご出席いただいておりますので、ご紹介いたします。

水本委員

今後とも、どうぞよろしくをお願いいたします。

山口教育長

それでは、令和元年度10月定例教育委員会会議を開会いたします。

まずは、日程第1、会議録署名委員の指名について、今月は、南委員よろしくをお願いいたします。

南委員

よろしく申し上げます。

山口教育長

続きまして、日程第2、会議録の承認について、先月9月定例教育委員会会議の会議録について確認していただきまして、何か訂正、付け加え等はありませんか。

特に無いようですので、会議録については承認とさせていただきます。

続きまして、日程第3、教育長報告に移ります。今月は3件の報告がございます。まずは、報告第15号、教育委員会の後援名義承認申請のあった行事について、今月は、新規の申請がございませんので、これまで承認したことのある行事について、何かご質問等はありませんか。

特に無いようですので、報告第15号につきましては、これで終わります。

続きまして、報告第16号、教育に関する事務の点検・評価報告書(案)について、教育総務課から報告をお願いします。

山本教育総務課長

それでは、報告第16号、教育に関する事務の点検・評価報告書(案)について、ご説明させていただきます。

この点検・評価報告書につきましては、平成20年度の法改正によりまして、義務付けされたもので、今年度におきましても平成30年度実績の点検・評価報告書(案)をまとめさせていただきました。

また、学識経験者との意見交換会につきましては、去る10月23日に開催し、各課より抽出した平成30年度の事務事業について、説明等を行ない、それぞれご意見をいただいたところでございます。報告書に係る学識経験者の所見につきましては、点検評価報告書(案)の44ページ以降に掲載する予定としております。

本日は、報告案件として、教育委員の先生方からご意見などをいただきたいと考えておりまして、本日いただいた意見等で修正が必要な場合は、修正を施し、学識経

験者からの所見を付け加えた点検・評価報告書（案）を来月の定例教育委員会会議において、議案として提出させていただく予定としておりますので、よろしくお願いたします。

以上で、ご説明とさせていただきます。

山口教育長

ありがとうございます。事前に資料をお渡しさせていただいておりますが、この内容につきまして、何かご意見ご質問等はございませんか。

山元教育長職務代理者

11 ページのところで課題として、貧困等の子どもを取り巻く環境に起因する生徒指導上の課題解決とあり、今後の方向性のことも書かれていますが、支障が無ければ、例えばどのような、その貧困の子供に関して、そういう生徒指導上の問題があるのかということをし差し支えなければ教えてください。

辻野教育総務部次長代理

具体的な例を一つ挙げさせていただきますと、とりわけ、今注目されている食というところがやはり大きな課題になっております。

子どもによっては朝食を食べずに学校へ来る子どももおります。そのことによって、なかなか学習に集中できないであるとか、落ち着かないというようなことなどが挙げられます。

なかなか学校では経済的な状況が見えにくいところもございますが、そういった子どもの小さな変化を、スクールソーシャルワーカーが配置されている学校などでは、子どもの様子を観察しながら、教員と情報共有し支援に繋げていく取組みを進めております。

水本委員

今の質問事項に関わってなんですけれども、スクールソーシャルワーカーを重点6小学校に3名配置しているということになってはいますけれども、他の小学校等への対応もこの3名の方がされておりますか。

辻野教育総務部次長代理

平成30年度におきましては、この3名については、重点配置校のみの活動となっております。この3名の方以外に、大阪府教育委員会から派遣いただいているスクールソーシャルワーカーの方、回数に制限はありますので、その方に他の学校へ多く行っていただけるように、市の単費で回数を増やせるよう予算を立てております。

山口教育長

スーパーバイザーを加えて4名ですが、他市には市単費でスクールソーシャルワーカーを配置しているところはあまりなく、それだけ本市ではニーズがあるということになります。貧困の話など、先ほどありましたが、様々な家庭の状況があり、それに対して適切に対応できるようにというところですね。

山元教育長職務代理者

18 ページのところで、平成30年度の主な実施内容ということで、小学校には30回、中学校には13回も肢体不自由の児童生徒対象の機能回復訓練を行ったと書いてありますが、これが、例えば1人につき年間何回ぐらいかという数字はわかるのでしょうか。

辻野教育総務部次長代理

年間合計43回ございますので、月に1、2回程度でございます。

山元教育長職務代理者

これはセンター校としては、富田林小学校や第一中学校ということですが、それ以外にも肢体不自由の子たちがほかの学校にも居ますよね。その人達は希望すれば、例えば富田林小学校で受けるのか、そんなことはできるのですか。

辻野教育総務部次長代理

ご希望がある場合、富田林小学校へ来ていただくことにはなりますけれども、それは可能でございます。

山元教育長職務代理者
辻野教育総務部次長代理

今はそういう案内はしているのですか、そういう方がいらっしゃらないのですか。
今、手元に資料がございませんが、私が担当しておりました時には実際におられました。

山元教育長職務代理者

この機能回復訓練というのは、言語のほうではなく、理学療法を中心にやっているということですね。

辻野教育総務部次長代理
南 委 員

はい、そのとおりでございます。

これに関連して、これは重点校になっている富田林小学校や第一中学校というのは、そういう理学療法士さんの訓練を受ける設備があるのですか。

辻野教育総務部次長代理

センター的運用をしている2校については、支援学級の中に、歩行訓練ができるようなバーやマットなどがあります。

南 委 員
辻野教育総務部次長代理

理学療法士さんに来てもらわないといけないのですね。行くだけではダメですね。

はい、そのとおりでございます。

山元教育長職務代理者

28 ページの課題のところ、長年にわたる活動・大会の実施の結果、内容の変化に乏しくなってきたり、市民ニーズとずれができて始めていると書いてあり、今後の方向性もそのニーズをよりの確に把握してと書いてありますが、どんなニーズなのか、どんなずれがあるのかなど、支障が無ければ教えてください。

正木生涯学習部次長

今行っております種目そのものが、長年変わっておりません。参加されている方の年齢だけが上がってきておりますので、その対応が伴っていない部分があるところと

山元教育長職務代理者

マラソン大会などは結構盛況ですよ。参加する方もどんどん増えてきて、そのあたりに問題はないのです。

正木生涯学習部次長

はい、問題ありません。

南 委 員

これは市民に周知するのは広報でされるのですか。

正木生涯学習部次長

市の広報やホームページが中心となります。

勝 山 委 員

トイレの改修で、乾式化というのはどういう事なのですか。

山本教育総務課長

トイレ清掃の際に水を用いて洗い流すようなタイル張りではなく、一般家庭と同様に箒で掃いたり、雑巾で拭くことができるよう床面が普通の板材等を用いて作られたトイレでございます。

勝 山 委 員

そのほうが清潔になるということですか。

山本教育総務課長

はい、そのとおりでございます。排水溝に溜まった水気、湿気からカビや雑菌が繁殖することがなくなりますので、乾式化にする方がより清潔になります。

勝 山 委 員

どれくらいのパーセンテージでそれが進んでいるのですか。

山本教育総務課長

洋式化と合わせて乾式化を進めておまして、7 ページに記載しておりますトイレ洋式化率が現在の状況となっております。

勝 山 委 員

洋式化をしたところは、乾式化になっているのですか。

山本教育総務課長

トイレの洋式化については、計画的に進めているところであり、第1期でトイレ洋式化を進めていた時は、乾式化をしていない学校もございます。よって、乾式化については、資料に記載している率よりは、若干低くなると思われま

山口教育長
山本教育総務課長

各学校に多目的トイレがありますが、それは乾式化になっているのですか。
ほぼ、乾式化になっております。多目的トイレは第1期に整備させていただいております。

山口教育長

他に、何かご質問等はございませんか。また、ご意見等ございましたら、個別に事務局にご連絡いただくようお願いいたします。それでは、報告第16号につきましては、これで終わります。

続きまして、報告第17号、令和元年度市表彰（教育委員会関係）について、文化財課より報告をお願いします。

房田生涯学習部次長代理

報告第17号、令和元年度市表彰（教育委員会関係）につきまして、ご報告させていただきます。

文化財課関係としまして、今回表彰いたしますのは、山形政昭氏でございます。山形氏は、大学教授であり、近代建築や日本家屋の専門家として高い識見を持ち、平成9年富田林寺内町が、重要伝統的建造物群保存地区に選定された同年8月から、現在までの22年もの長きにわたり、富田林市伝統的建造物群保存審議会委員として、専門的な立場から、富田林寺内町地区の町並み保全や街づくり形成に関して、貴重な提言や適切な助言により、歴史的町並み保存と地区活性化に大きく寄与するとともに、市文化財行政の振興に多大な貢献をされており、長年にわたる活動と功績は顕著であることから、富田林市表彰条例に基づき表彰を行うものでございます。以上でございます。

山口教育長
正木生涯学習部次長

ありがとうございます。続きまして、生涯学習課より報告をお願いします。

生涯学習課より、令和元年度市表彰（教育委員会関係）につきまして、ご報告させていただきます。

生涯学習課からは6名の表彰がございます。初めに、富田林市体育協会からの推薦としまして、榊井房夫氏でございます。榊井氏は、長年にわたり、富田林市ゲートボール連盟で公私ともに今日に至るまで、連盟の運営・発展にご尽力され、現在は審判部長として活躍されています。

次に、富田林市青少年指導員連絡協議会からの推薦としまして、高尾明照氏でございます。高尾氏は、平成14年4月1日付で委嘱を受けて、今日に至るまで、17年間の長きにわたって青少年の健全育成にご尽力されるとともに、高辺台小学校区の地区幹事に就かれ、青少年指導員としての重任を担われております。

次に、同じく富田林市青少年指導員連絡協議会からの推薦としまして、澤田親正氏でございます。澤田氏は、平成14年4月1日付で委嘱を受けて、今日に至るまで、17年間の長きにわたって青少年の健全育成にご尽力されるとともに、喜志西小学校区の地区幹事に就かれ、青少年指導員としての重任を担われております。

次に、富田林市スポーツ推進委員協議会からの推薦としまして、山下美紀氏でございます。山下氏は、平成16年からスポーツ推進委員を務められ、健康運動実施指導者として幼児を中心とした教室の指導に積極的に取り組まれるとともに、地域でのスポーツ活動でも指導者として尽力されています。

次に、同じく富田林市スポーツ推進委員協議会からの推薦としまして、松田早人氏でございます。松田氏は、平成20年からスポーツ推進委員を務められ、地域のP

TA活動や同協議会の事業、青少年育成事業にも積極的に参加されています。

最後に、富田林市少年スポーツ連盟からの推薦としまして、後藤典明氏でございます。後藤氏は、昭和56年から少年スポーツ連盟の役員を務められ、地域の少年スポーツの指導にも熱心に取り組まれるなど、長年にわたり青少年の健全育成に尽力されています。本市の少林寺拳法の発展、少年スポーツの発展に大変寄与されております。

以上、生涯学習課からは6名の表彰者の推薦となります。よろしく願いいたします。

山口教育長

ありがとうございます。それでは、報告第17号につきまして、何かご質問等はありませんか。

表彰対象者は、それぞれの外部団体を含めて、推薦が挙がってきて、各課から推薦するという方法ですか。選考については何年以上などの基準があったと思いますが、今回はそういう仕組みはないのですか。

正木生涯学習部次長

選考基準につきましては、概ね10年以上にわたって活動されている方などの基準がございます。

山口教育長

他に、何かご質問等はありませんか。特に無いようですので、報告第17号につきましては、これで終わります。

続きまして、日程第4、富田林市教育委員会の議決を経るべき議案に移らせていただきます。今月は1件の案件がございます。それでは、議案第32号、中学生チャレンジテスト（3年生）の結果公表について、教育指導室から説明をお願いします。

西岡教育指導室参事

議案第32号、令和元年度中学生チャレンジテスト（3年生）の結果の公表について、お手元の資料に沿って説明させていただきます。

チャレンジテストにつきましては、大阪府より示されております実施要領の中で、「市町村教育委員会は、域内の状況にかかる調査結果の公表に努めること。」と示されておりますことから、ご覧いただいている内容で公表を行いたいと考えております。では、資料について順に説明いたします。

まず、資料の大まかな構成ですが、国語から英語までの5教科の学力状況を左上から順に、2段に分けて掲載しています。資料右下には、各教科に関するアンケート結果をまとめております。

次に、各教科の結果について順に説明いたします。左上の国語をご覧ください。

教科名のタイトルのすぐ下に正答率と無答率を掲載しております。正答率は、大阪府が57.1に対して本市は58.1と府を上回っております。対しまして、無答率は、大阪府の6.2に対して本市は3.9と府を下回っております。

その下は得点の人数分布を示したグラフですが、棒グラフが本市で、折れ線グラフは大阪府となります。このグラフから、本市においては府に比べて55点から59点の層が厚くなっていることが分かります。

次に、その右の横棒グラフをご覧ください。このグラフは、各設問の正答率を、問題の形式別・評価の観点別・学習の領域別にまとめ、府と比較したものととなります。赤色（上）の棒が本市、青色（下）の棒が府を現しています。このグラフから、府と比べて伝統的な言語文化に関する事項は良好であるものの、読む能力については、や

や課題が見られることが分かります。

グラフの上の枠囲みをご覧ください・四角の1つ目は、学力の分布傾向を、2つ目は府と比較した正答率と無答率の状況を、3つ目と4つ目には右下横棒グラフから読み取れる成果と課題を記載しております。

続いて、社会から英語の結果につきましては、今説明した枠囲みの内容を中心に、順に説明いたします。

社会では、学力の分布は40から44点を頂点とする山形となっております。本市の正答率は47.4で大阪府を上回り、無答率は4.0で大阪府を下回っております。資料活用の技能で前年度より改善が見られますが、領域では、歴史的な分野で課題が見られます。

数学では、学力の分布は、やや得点の高いほうに寄ったなだらかな山形です。本市の正答率は55.6で大阪府を上回り、無答率は9.3で大阪府を下回っております。数と式の領域は良好ですが、資料活用で課題が見られます。

理科では、学力の分布は45から49点を頂点とする山形となっております。本市の正答率は48.9で大阪府を上回り、無答率は3.7で大阪府を下回っております。観点別の知識・理解は良好ですが、化学的領域について課題が見られます。

次に英語では、学力の分布は、やや得点の低いほうに寄ったなだらかな山形です。本市の正答率は46.6で大阪府を下回り、無答率は3.4で大阪府を下回っております。外国語理解の能力は良好ですが、観点別の知識・理解について課題が見られます。

最後に、アンケート結果ですが、内容としましては各教科の「授業はよく分かるか」を調べたものです。5教科とも、肯定的な回答が府を上回っており、各校における授業づくりの工夫が、良好な結果に結びついていると考えております。

以上、公表を考えております資料について提案させていただきました。ご検討よろしく願いいたします。

山口教育長

ありがとうございます。議案第32号につきまして、何かご質問等はございませんか。

山元教育長職務代理者

以前ですね、金剛中学校で英語の授業を見せていただきまして、もう本当に衝撃的で自分の受けてきた授業がいかに化石だったかということで、あの時はびっくりしたのですが、この英語の結果を見ましたら、府より下回っているということで、すごく子どもたちは積極的に、日本語のほとんどない授業で、意見もいろいろと自分で発言し、すごいなと思っていたのですが、この結果を見ると、ちょっと不安になってきて、成果はどうなんだろうと。どこの学校もきっとこのような形式になりつつあって、子どもたちにとって求められているニーズの力をつける。そういう授業展開であったと思いますが、その辺りのこの結果とですね、今行われているような形式の授業に対して、今後の展望というか、どのような授業改善をしていかなければならないのか、方向性があれば教えてください。

西岡教育指導室参事

まず、今年度の全国学力学習状況調査の結果で、大阪府は全国と同等ですので、そういう意味で言いますと、府の英語力につきまして、一定の成果が出ていると考えております。

この府に対する比較ということになりますが、ご覧いただいた金剛中学校の授業

につきましては、これからの子どもたちに求められる実際の生活や社会の場面で、即興的に英語でやりとりをする力を育てるのに繋がっていると考えております。

今回の英語のチャレンジテストの結果を分析いたしますと、主に2点課題が見られるかと考えております。

一点は、会話文を読んで話の展開を掴んだりするような力に課題が見られます。具体的に言いますと、この一定量の英語文を正確に和訳するような力ではなくて、そこにどういったことが書いてあるのかという、概要を掴むというような力をこれからつけていく必要があるということになります。

もう一点は、括弧の中に示された語句を並び替えて、正しい英語にして答えるというような、いわゆる基礎、基本の部分になるかと思いますが、正しい英語を使う力も課題であります。

そういったことから、一つ目の課題は、英語で書かれた内容を大ざっぱに掴むという力、また、正確な英語力も必要ということで、すべての教科に通ずることかと思いますが、結論といたしましては、どれか一つの力に偏るのではなく、それぞれに求められる力をバランスよく授業の中で育成していくような、取り組みを進めていく必要があるのではないかと考えております。以上でございます。

棒グラフの赤と青の下の数字というのは、単位は何になりますか。

これはパーセントになります。

そうするとやはり英語の書くこととか、パーセントがすごく低いですね。私も授業を見学させていただいて、すごく良い授業だなと思いましたが、授業で身についたことを、テストで答えるためには書けないと答えられない。書くというのは、その時、お伺いしたときは、今日は話したり聞いたりすることが中心で書くこともやっていまずということだったのですが、書くことがすごく少ないのかなというイメージがありました。実際の日本人は、外国人と会った時に書けるけど、話せないということ、ずっと言われてきたので、すごくそれをやらないといけないうのがあって、おそらくその能力は昔の私達より、ずっとあると思いますけど、これがテストになると、それが発揮できないのかなと思ったりしたのですが、選択式だとすごく答えられているけど、記述になると書けないということになっているのかなと思いました。

おっしゃる通りだと思います。特に今の英語の授業で、話すこと、即興でのやりとり、そういった部分が、全国的に見ても弱いということで授業改善を進めておりますが、そういう活動では、相手がいて、一回相手から聞かれたことに答えても、相手はわかっているなと思ったら、その反応を見ながら言い直すことができます。書くことになると、正確な英語を使う力が求められてきますので、やりとりばかりやっていると、書くことがおろそかになる。そういった意味でやはり話すことも書くことも聞くことも読むことも、バランスよく授業で取り組んでいく必要があるというふう考えておる次第でございます。

過渡期だと思うんですね。これから小学校でも英語をするようになってきたら、即興で話したりする能力を小学校のうちに身につけ、中学校に入ると、今度は書いたりする方向に持っていければと。今はまだ、そこに至っていないということなのかなとは思っています。

南 委 員
西岡教育指導室参事
南 委 員

西岡教育指導室参事

南 委 員

勝山委員 数値で表すとなると、どうしてもそっちになりますよね。大まかに会話の能力っていうのかな、把握することは非常に大事だと思うので、方向性は間違っていないと思います。

南委員 英語教育をもう少し早くから取り組むようになってきたら、またこの数値も変わってくるのかなと思います。

水本委員 でも来年度から小学校では、新しい新学習指導要領が全面実施になるので、高学年で英語が教科化されますよね。その結果を受けて、この中学校のテストの結果が、数年後にね、どのように変わっていくのか、楽しみですけどね。多分この後、小学校と中学校の連携を深めていかないと、効果的にはなっていないと思いますので、そこが課題ではあると思いますね。

山口教育長
西岡教育指導室参事 特に今市内で英語の研究とか進めているような学校はあるのですか。

本年度につきましては、府からの研究委嘱ということで、葛城中学校がスピーキング力の向上ということで、研究に取り組んでおります。

今おっしゃられたように、このチャレンジテストにつきましては、一つの結果となりますが、これを踏まえた上で、これからの子どもたちにとって力をつけるためにどのような授業を進めていくかということを考えること。それによって子どもたちに力をつけてあげていくことが、一番重要なことかと考えております。そういったことを踏まえて、各学校の教育活動の支援を行っていきたいと考えております。

山口教育長 おそらく、小学校の英語科という教科ができ、どんな展開になるのか。昔は、英語嫌いはグラマーから始まるというのがありまして、それでみんな嫌いになっていく。それが小学校から始まり、嫌いになる時期が早くなっては困りますので、逆にその辺りをどのような授業を組んでいくのか。また、それを踏まえて中学校はどのように取り組むのか。また、教育委員の皆さんも含めて、一緒に視察する機会を設けていただくようお願いいたします。

他に、何かご質問等はありませんか。特に無いようですので、議案第32号につきましては、提案どおり議決させていただきます。

以上で、本日の日程は、すべて終了となりました。本日の案件に対しまして、様々なご意見、ご質問をいただき、ありがとうございました。これで令和元年度10月の定例教育委員会会議を終了いたします。